

令和2年度 府立北桑田高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 計画段階 ・ 実施段階 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>1 時勢の変化と教育に対する社会的ニーズの推移に対応した、特色ある教育の創出</p> <p>2 基礎学力を身につけるとともに、進路目標に応じた学力・能力を身につけ、自らを高め、将来を切り拓いていくことができる生徒の育成</p> <p>3 郷土の自然や文化に学び、前向きに地域社会とかわかり、貢献しようとする姿勢を持つことのできる生徒の育成</p>	<p>1 学校活性化の具現化を進め、生徒・保護者や地域のニーズと期待に応える目標を掲げ、教育活動を推進した。本校の特色を活かした教育課程、学科編成を検討することができた。今後、新学習指導要領や新たな取組に向けた迅速な対応が必要である。</p> <p>2 専門学科の受験者数が増加した一方、普通科は前期選抜A2方式を拡大したが、生徒数確保にはつながらなかった。普通科の特色をより明確にし、生徒数確保に取り組んでいくことが大切である。</p> <p>3 少人数の特色を活かした丁寧な個別指導の実施等、学力・能力の向上を図った。今後も少人数のメリットを生かし、進路を切り開き生きる力を養う教育を推進する。</p> <p>4 個別指導、予備校サテライト講座の実施、英語スピーチコンテストの実施など本稿独自の学習システムを推進し、学力向上や進路実現への対応を進めた。今後も、高大接続改革や新たな入試制度に向けたより具体的な指導を進めることが大切である。</p> <p>5 地域創生推進校として地域と連携し、地域に開かれた取り組みを積極的に行い、地域からも高い評価を得た。今後も小・中学校との学校間連携を一層進めることが大切である。</p>	<p>1 学校活性化構想の具現化を更に進め、地域・生徒保護者のニーズと期待に応える教育活動を推進する。</p> <p>2 学科改編と全国募集開始に際して、さらなる教育内容の工夫、環境の整備、特に寮の新築に向けた動きを推進する。</p> <p>3 多様な生徒の実態に応じ、学ぶ姿勢の確立や基礎学力の定着を図るとともに、進路実現のための学力・能力の向上を推進し、生徒が学びの満足感や自己肯定感を高められる学校づくりを行う。</p> <p>4 生徒の進路実現、進学実績の向上をめざし、主体的・能動的な学びに導く、質の高い教科指導を組織的に展開する。また、新学習指導要領、高大接続改革、新たな大学入試制度への対応を迅速・的確に行う。</p> <p>5 小中学校との連携を進め、学科や部活動など学校の特色をより明確にし、積極的な情報発信や、組織的、効果的な生徒募集を行う。</p> <p>6 「地域創生推進校」として、地域と連携し、地域に信頼され、地域の活性化に貢献できる取組を推進する。</p> <p>7 部活動のあり方について検討を重ね、更なる特色化、活性化を進める</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
組織運営	学校活性化の推進	新学科「京都福祉科」の教育内容の充実 全国募集に係る校内体制及び制度の拡充 普通科の教育内容の精選と刷新	A A A	A	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響で当初の諸計画の見直しを迫られたが、教職員が一丸となって、それらの多くを実施し、成果を挙げた。上記事態への対応を通して、組織運営のあり方を見直し、地域や大学、外部機関との連携を推進することができた。ただ、学校運営面において、より一層のICTの活用が必要である。</p>
	「チーム北桑田」としての組織的で効率的な学校運営	部長会議を中心とした各種会議の効果的な運営 分掌間、教科間、学科間等、教職員間の連携強化	B A		
	働き方改革の推進	効率的な校務運営による勤務時間の縮減	B		
	教職員の資質能力の向上	校内研修の充実及び校外研修への参加促進 探究心旺盛で、学び合う教職員集団づくり 地域や大学等との連携促進	B A A		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
教育課程の編成と実施	京都フォルスト科・森林リサーチ科、普通科共に、魅力のある、期待される3年間となる教育課程の編成と実施	本年度の学校経営計画重点3に心じたかたちで、令和4年度学習指導要領改訂に即した教育課程の編成	B	B	令和4年度教育課程の編成に時間と議論を重ね、現時点で実のある編成ができた。今後、入試制度等を考慮し、より発展させる。
学習指導	学習指導に関する授業評価アンケートにおいて肯定的な意見、80%	教師が生徒と共有する時間の確保のために、会議の精選・教育環境の整備・教育計画の工夫と実現 生徒の知的好奇心をくすぐる授業改善と家庭学習の習慣化を両輪とした学力伸長	A	B	平均81.8%、概ね目標数値は達成できた。主管会議が昨年より増加した。次年度は会議、構成員等の精選により、教育環境の整備を図る。
人権教育	生徒の人権意識の向上 分掌、特に学年との連携を密にする 教職員研修の充実	生徒の実態に即した人権教育の実施と人権尊重の意識や差別を許さない態度の育成 各学年の課題に対する適切な対応 教職員の世代交代を踏まえ、これまでの人権教育の成果と課題を引き継ぐ取組の推進	B	B	人権学習後の感想では今後に向けての考え等しっかりしたものが多く、これからの行動に繋がればと思う。教職員研修では講演のDVDの視聴であったが20名以上の参加、内容的にも良い評価であった。感想を参加者全員が記入できることを期待する。
進路指導	生徒の希望進路実現をめざし、3年間を見通した進路指導を推進し、進路意識を喚起して自ら進路を切り拓く力を育成する。	・担任団、各教科と連携し、生徒一人ひとりの適性・能力を的確に把握し、希望進路の実現に向けた学力・能力の向上を図る。 ・進学講習、サテライト講座、学習クラウドシステム、模擬試験等を活用し、学ぶ姿勢の確立や基礎学力の定着を図る。 ・高大接続改革、新たな大学入試制度への迅速的確な対応 ・保護者向け進路講演会、進路説明会、学校見学会などを適切な時期に実施し、保護者への情報提供の充実を図る。	B	A	10ヶ福の中で、計画していた進路指導・進路行事は計画通り実施できなかったが、担任団と連携しながら、創意工夫をし、進路意識を醸成させるような取組をできる限り行った。特に3年生については生徒一人一人が自分自身と向き合い、将来について考えさせるような取組ができた。進学講習、サテライト講座、模擬テスト、大学入学共通テストへの対応等、10ヶ感染予防に留意しながらできる限りの対応をした。進路かわら版の定期的な発行はできたが、保護者向けの進路見学会・進路説明会など進路に関する情報提供・情報発信があまりできなかった。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立と規範意識・社会性の養成 安全教育の徹底	「挨拶」「正しい言葉遣い」「身だしなみを整える」等当たり前のことが当たり前にできるようにする 規則違反やマナー違反・不正を許さず安心して安全な学校生活の推進 家庭・関係機関と連携した問題行動の未然防止と全教職員の一致した指導 PTAや地域・関係機関と連携し日常生活全般における安全確保に努める	A	A	立ち番や授業等での声かけにより挨拶や身だしなみ等一定指導できた。小さなトラブルでも担任や家庭と連携し丁寧に対応することによって、今年度特別指導は行わなかった。盗難事象が数件あり、来年度は、注意喚起、巡回等で未然防止に努める。自転車通学生への交通安全指導を継続して行う必要がある。
特別活動	生徒会活動と部活動の充実	学校祭や行事だけでなく日常の学校生活でも生徒会が主体的に活動できるようにする 生徒数などに対応した部活動のあり方を考え、更なる活性化を進める。	B	A	今年度は行事以外での生徒会活動はあまり行えなかったが、次年度への課題である。今年度新たにフリスビークラブを立ち上げることができた。

評価領域	重点目標	具体的方策	評価			成果と課題
健康・安全 教育	保健管理、保健教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 各種健診結果に基づく細かな指導と、保護者連携のもと、必要な生徒の医療機関への受診率を向上する。 委員会活動を充実することにより、日常の健康管理や環境美化の意識を向上させる。 生徒の状況を鑑み、保健学習の実施を通して、自己を取り巻く情勢の理解や正しい言動についての考察をさせる。 	B	B	B	<p>新型コロナウイルス感染症の流行により、各種検診、教職員研修など、多くの行事が中止、延期になった。各種検診は、感染症対応をしながら年内に完了することができた。保健学習については、各学年1回ずつ実施することができた。教職員研修は、年度当初の「配慮を要する生徒についての情報交換」のみの実施となった。教育相談会議は、生徒状況の交流はできたが、支援を必要とする生徒に対する手立てや当該担任への助言は不十分だった。各分掌と連携し、下記の新型コロナウイルス感染症対策を実施できた。①生徒への啓発活動②教職員への指導資料作成③消毒作業計画・消毒用品購入計画の立案④発熱生徒対応策の作成⑤教室の2段階換気</p>
	特別な支援を要する生徒への指導・支援の工夫と充実	<ul style="list-style-type: none"> 教職員研修実施するとともに、学年・分掌・教科等との連携を密にし、生徒の状況の把握、共通理解のもと、合理的配慮に基づく指導を実施する。 	B			
道徳教育	規律・規範を重んじる姿勢の養成	<ul style="list-style-type: none"> 規則や、公共の場におけるマナーを守る態度の育成 	B	B		<p>授業や学校行事を通して、望ましい人間関係や人間性について考え、実践する機会を持つことができた。概ねルールやマナーに関して問題はなかったが、課題として、自転車通学については継続的に指導を行う必要がある。</p>
	愛情を持って人に接する人間性の養成	<ul style="list-style-type: none"> 各教科や各分掌との連携を図り、人間として望ましい在り方について考える姿勢の育成 	B	B		
家庭・地域 との連携 (PTA)	保護者・地域との連携のより一層の強化	<ul style="list-style-type: none"> 地域から注目され、信頼を得られる「地域創生推進校」を目指し、地域やPTAと連携した魅力ある学校づくりを行う。 	B	A		<p>校内・校外の会議等は、いずれも中止・延期を余儀なくされたが、例年行っている文化祭や耐久走での活動はPTAと連携し、感染対策を行いながら、実施することができた。「PTAだより」を年3回発行し、PTAメールは毎週金曜日に配信する等、定期的な広報を行い、地域への一定の働きかけができた。</p>
	地域への積極的な広報活動の展開	<ul style="list-style-type: none"> 「PTAだより」・HP更新・PTAメール等の広報発信をタイムリーに行い、「みがく、かがやく。」の実践を発信する。 	A	A		
活性化推進	学校活性化構想に基づいて展開する内容の記録と広報	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度に展開する特色ある教育活動と生き生きとした生徒の表情を記録し、学校案内、広報誌、HPを活用して地域社会に発信する。 	A	A		<p>教務部より移管した生徒募集業務を新たに加え、昨年度総括において申し送りを受けた内容については、全て改善を加えた。一方、地域創生フェスティバル外会議の見直しや学校祭関係等の生徒指導部への移管、HP管理など、校務分担の再編成を進める。</p>
	令和3年度入学生の定員充足率75%、美山中学校・京都京北小中学校からの進学率80%達成	<ul style="list-style-type: none"> 学校説明会、中学校訪問、個別進路相談、広報物の発行を組織的、計画的、効果的、効率的に行い、進路指導の一助となる情報提供を行う。 	B	A		
学校図書館	学校図書館の活用によって、図書・電子資料の適切な活用力の醸成、豊かな読書生活への助長	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じた資料提供ならびに文献検索の推進 電子資料の適切な利用促進 読書活動の推進・読解力向上のための読書推進 	B	B	B	<p>授業利用の際、必要に応じて資料を提供することができた。電子資料に関しては、図書館だよりを通して紹介できた。更なる地域資料・森林関連資料の収集が今後の課題である。</p>
	地域文化の資料・情報収集に努め、地域活性化への貢献を図る	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特色である、樹木・木材・林業に関わる資料の収集・展示 	B	B	B	

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
農場部	効率的・効果的な農場運営	<ul style="list-style-type: none"> 農業クラブ活動・各種の研修会への参加や資格取得の奨励及び技術向上の推進 安全管理能力を高め、安心・安全な実習環境の推進 農場部の効率的・効果的な運営の実施し、計画的な収益につなげる 	A A A	A	J1禍の中、中止になる大会が多かったが、府平板測量競技会や校内大会、資格試験を積極的に行えた。また、将来の農場設備絡め計画を立て、円滑に取り組み、目途が立った。
寮務部	円滑な寮生活を送るための、規則・ルール徹底	寮生徒との対話を充実させた愛情ある指導の推進と、規則厳守させるためのきめ細かな生活指導の徹底	A	A	全体的にはルール・規則は守れたが、生活習慣の向上が必要。J1感染防止対策は図れた。I7J1の全室稼働など、設備の改善は図れたが、急速に老朽化している設備充実が課題。
	生活環境の維持及び施設の充実	施設・設備の点検、改善による環境整備の充実	A		
事務部	生徒・教職員が安心できる教育環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> 老朽施設・設備の点検、改修の実施 寄宿舎設備の更なる充実 美山分校との情報共有 	A A B	A	感染症対策を柱に、施設の点検を実施して、安心安全な環境作りに努めた。分校との情報共有に関して、リモート会議等の実践ができなかった。
第1学年	適切な生活習慣の確立と規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> 服装・挨拶・言葉使いなど、高校生としてのふさわしい態度、および自己と他者の双方を尊重する規範意識の育成 	A	A	凡事徹底を学年目標とし、学年・クラスで声かけを行ってきた。大きな乱れもなく、落ち着いた学校生活ができた。家庭学習については個人差が大きく、引き続き学年・クラス・J1単位での呼びかけを行っていく必要がある。また、個人手帳の活用を図る。部活動の加入率は90%以上であった。各部活動で日々懸命に練習し励むことができています。学年・教科と緊密に連絡を取り、適切なタイミングで保護者連絡や家庭訪問を行い、きめ細やかな対応ができた。
	学習指導の充実と自主活動への積極的参加	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習習慣の定着と、基礎学力の向上。 部活動への積極的加入の促進。 支援を要する生徒への適正な支援。 	B A A		
	学習環境の充実と改善	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業内容を充実による基礎学力の向上 自己実現に向けた、進路開拓に必要とする力の養成 	A B		
第2学年	社会人基礎力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等を通じた仲間意識の向上、リーダーシップや協調性の伸張 自身の行動に対する責任と自覚、自己肯定感の醸成 	A A	A	成果としては、J1禍にありながら研修旅行について無事成功させることができ、普通科・森林科・理科ともに研修目標を達成することで社会人基礎力の向上につながった。課題としては、次年度の最終学年に向けて、進路目標の明確化・具現化を進める。
	希望進路実現に向けた指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業を基本として、家庭学習、平常補習、リポート学習等を積極的に活用し、確かな学力の育成 担任、保護者、進路部との連携を深め、生徒個々に応じた適切な進路指導の推進 	A A	A	日々の学習を通じ、確かな学力を身に付け、リポート学習等の活用により個々の必要とする力を伸ばすことができた。休校期間中から進路面談を行う等、適切な進路指導に当たり、概ね第一希望の進路を実現することができた。学校行事に積極的に取り組み、その中で自他を尊重し認め合う力を育てることができた。
第3学年	社会生活を意識した生きる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 日常から規律や規範の意識を高め、人間性・社会性を磨き、社会で必要とされる人物の育成 学校行事等を通して、自他を尊重し、他人を思いやる心の育成 	A A	A	

【 教科 】

教科領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
国語科	学習習慣を確立させ、基礎学力の定着を図る	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、語彙などの、読解力を支える基礎的言語事項の学習の充実 計画的、継続的な小テストや課題への取り組みを通じた、主体的な学習への取り組みに向けた指導 学習規律の確立と、生徒が興味関心を持てる授業づくりの工夫 	A	A	B	読解力の基礎となる漢字・語彙等の定着に向けた取組を小テスト等を計画的に取り入れて行うことができた。新型ｺﾛﾅｲﾙスの影響により、これまで取り組みを進めてきた、言語活動を取り入れた主体的な授業を行うことに制限が生じてしまった。しかしながら、ICT機器を活用した授業の在り方等に工夫を加え、効率的な学習に向けた取り組みができた。週末課題等を取り入れ、家庭学習の習慣づけに向けた取組をより一層充実させることが今後の課題である。
	実生活で生きてはたらく論理的思考と表現力の育成と希望進路実現の支援	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に応じた効果的な言語活動を通じての、思考力と表現力の育成 新テストの記述問題や小論文、面接等を想定した、書くことと話すことの指導の強化 新テストも想定した多様な文章について、精読や演習を通じた読解力、進路実現に向けた実践力の養成 	B			
地歴・公民科	現代社会とのつながりを意識した授業展開を行い、主権者としての意識高揚をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> 「教科書をじっくり読んで、アンダーライン」「板書を写すだけでなく、ﾂの追記」を徹底し、社会の仕組みに関する知識理解を深化させる。 主題を設定し、情報を調べたり、まとめたり、表現する学習活動を通して、賛否が分かれる社会事象について最善解を考える授業展開を行う。 各公益団体が主催する公民分野の小論文コンクールに積極的に応募し、上位入選を目指す。 	B	A	A	各小科目において、ｺﾛﾅｲﾙであったため授業時間数の確保に努めながら、長期休業を活用して、小論文課題など思考力・表現力を磨く機会を設定した結果、小論文ｺﾛﾅｲﾙ等で多くの入賞者を出せた。また、授業・進学補習・生徒が運営管理を行うﾗｲﾄ講座をﾊﾞｽﾓｯﾄﾞさせた地歴公民科の学力向上ｽﾄﾗﾃｼﾞを構築できた。
数学科	コースに応じた授業展開で基礎力、応用力を育成し、新たな大学入試制度への対応を図り、希望進路実現へと導く	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒の実態に応じ、放課後等の適切な補充指導の実施 定期的な課題提出、小テストの実施による基礎学力の定着 進路希望に合わせた応用力の充実を推進 予備校サテライト講座と併せて進学補習の充実 	B	B	B	補習については、数学科全員で指導するなど充実した体制で取り組めた。休校中には、1人でも取り組めるように意識した課題を作成し、学力の伸長を図った。iPadやClassi等のICT機器を活用し、授業及び家庭学習の効率化を図ることができた。
理科	基礎学力定着のための学び直しの充実及び全ての生徒がわかる授業に向けた工夫	<ul style="list-style-type: none"> 各分野の特性、生徒の状況に応じて高校以前の知識を復習し、基礎学力の定着・向上を目指す。 全ての生徒がわかる授業のために、板書やﾌﾟﾘﾝﾄ作成の工夫、実験の説明に動画を取り入れる。 	A	A	A	小数、分数の計算など理科において必須である基本的な数的処理能力や文章・資料読解能力が徐々に低下していることから、学び直しをしなければ授業が進められない状況の講座があるため、各科目で工夫ある授業を行った。また、主にICTを活用し、生徒の意欲向上や想像力を補助する教材作成も行った。今年度はｺﾛﾅｲﾙにより実験がほとんど実施できなかったため、この状況下で実施可能な実験方法の工夫や実験に代わる教材開発が今後の課題である。
	基礎学力定着および興味関心を引き出す授業の工夫に加え、科学的思考力、それによる新入試への対応	<ul style="list-style-type: none"> 演習・小テストの適切なﾀｲﾐﾝｸﾞでの実施や、ICT教材の効果的な使用により生徒の学習意欲を向上させ、基礎学力の定着を図り興味関心を引き出す。 計画的な実験・観察、問題演習の実施により、科学的思考力や判断力、表現力を養い、これらの力を新入試へ応用できるよう指導する。 	A	B		

教科領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
保健体育科	基礎体力・運動技能の向上と健康の保持増進を図る	<ul style="list-style-type: none"> 規律ある効率的で個々に応じた授業展開により体力と運動技能を向上する 保健の授業で調べ学習等を通して自他や社会の課題を発見し、健康のために適切な方法を選択決定できるようにする 	A	A	<p>30分により様々な制限がある中で種目等工夫しながら生徒の体力や運動技能を向上させることができた。3年生の「グループ」学習では、リーダーが毎時間それぞれの課題を考え、適切な授業案を作成・実施することで技能が上達し全員が楽しく取り組むことができた。健康運動では30分によりゲームボールができず、地域の方々との関わりを持つことができなかった。</p>
	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業を行い、運動の楽しさや喜びを味わうと共に、公正、協力、責任や健康、安全に留意する態度を身につけさせる	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協調し、対話的に行うことで公正、協力、安全に対する態度や運動の楽しさを味わう グループ学習で主体的・対話的に取り組むことによるリーダーシップ・フォローアップの育成 健康運動では地域の資源を活用するとともに新しいスポーツにも積極的に挑戦する 	A	A	
芸術科	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 芸術表現の基本技術の習得 芸術作品の基本的な鑑賞力の育成 芸術を愛好する気持ちの育成 一人一人と向き合い、創造力や感性を育むゆとりある年間指導計画 	B	B	<p>机間巡視を大切にし、個々のニーズに則した指導ができた。前年度の優秀作品を常時展示することで、作品制作に対する意識を高めることができた。</p>
英語科	基礎学力の定着と進路実現に向け、新しい大学入試に対応できる実践力	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上をめざし、「予習⇒授業⇒復習」の学習サイクルを習得できるような指導や定期的な小テストの実施 新入試に対応できる実践力の育成に向けた予備校サテライトの効果的な活用や進学補習の実施 	B	A	<p>学習のサイクルを身につけさせることができた。さらなる基礎学力の向上を目指し、指導法に関して探究する必要がある。新入試の開始や希望進路の多様化を受け、サテライト講座の内容の見直しや進学講習の開講講座数の拡充を行い、生徒の進路実現につなげることができた。6月以降、英検やGTECを校内で実施し、CEFRレベルA2以上の資格を取得した生徒が増加した。昨年度よりもTTの授業回数が増加した。また朝の時間や昼休み等に、希望者に対し英会話の時間を設定し、英語を運用する機会が増加した。</p>
	「読むこと」や「書くこと」に加え、を充実させることによる4技能の総合的な育成	<ul style="list-style-type: none"> 英語を運用する機会を増加させることを目的とした、ALTの積極的な活用 4技能を測定可能な実用英語技能検定やGTECを校内で実施し、CEFRレベルA2以上の資格（英検準2級以上）やスコア（GTECスコア690以上）の取得に向けた指導の推進 	A	A	
家庭科	自立・共生する力を育み、様々な人々と協働し豊かに生きる生活者の育成	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生活と世の中の動きを関連付けて捉え、生活者として主体的に生きるのに必要な知識・技術の指導 地域との連携や様々な事業の活用による主体的かつ実践的な学習機会の多くの設定 生活の中の課題解決の力の育成 	A	A	<p>30分であったが、新しい生活様式を取り入れ、地域交流や外部講師による特別授業を実施し、実践的な学習の機会を設けることができた。生活の中の課題を見つけ解決方法を考え実践することを長期休暇を利用して行うことができた。生徒の実態やニーズに応じた教材を工夫することができた。</p>
	分かりやすく生活に役立つ授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態やニーズを把握し、効果的な授業の進め方や教材の工夫を実施（実習グループワークの充実、視聴覚教材の活用） 	B	B	

教科領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題	
情報科	魅力ある教材の作成	・生徒に応じた教材の選定（研修旅行事前学習・本の紹介プレゼンテーションなど）	B	B	研修旅行の事前・事後学習や図書館と連携した「本の紹介」等、学校行事や学校施設を有効活用した。情報セキュリティ標語に応募した。
	情報の科学的理解	・情報モラルやセキュリティ、最新機器に関するこの実際の事例による理解の深化	B		
農業科	学習意欲の喚起と授業規律の確立をの生きる力につなげる指導	・個々に応じた丁寧な授業、最後までやり切らせる指導、質の高い学習活動の実施	A	A	放課後の進路指導や資格試験の補講を計画とおり行い、100%の進路実現を果たした。他校種間連携や社会人講師を活用した心のエンジンに火が付く教科指導を行った。
		・学科の特色を活かした地域や大学との連携促進	A		
		・授業規律の指導強化・社会人マナーの養成	A		
		・放課後の進路指導・資格補講の充実。	A		
総合的な探究の時間	第一学年 地域社会の課題を自らの課題として捉え、周りと協力しながら最善解を求めていく体験をさせる。また、実生活で体験した内容などを英語で表現する実用的な力を養う。	・第1学期(知識理解)、第2学期(体験)、第3学期(地域社会に関する論文作成及び論旨発表)という授業計画を再構築する。 ・体験を通して感じたことを英語で表現する。 ・自分が体験したことや、感じたことをブログ・ブログで発表する。	A	A	本校の特色である「地域と共に育む、学力向上システム」の基盤学習としてカリキュラム開発ができた。新学習指導要領において先行実施となっている領域であるが、他校の模範となる学習活動の水準にある。
	第二学年 英語という言語ツールを活用して、北桑田地域の自然、文化、産業についてや身の回りの事を表現する力を伸長する。	・ALTを積極的に活用し、日々の生活を英語で表現して発表する。また、相互に英語で質疑応答し理解を深める。また、英語による調べたことをプレゼンする機会を設定する。	B		
総合的な学習の時間	第三学年 地域社会に生きる一人の人間としての自覚を高め、地域の魅力を発信することによってコミュニケーション能力や情報を取捨選択してまとめる力、表現力の育成をめざす	・地域に発信、提案するプランを作成することで学習への意欲を向上させる。 ・実際にプレゼンテーションをすることによる、表現力の向上	A	B	地域活性化に向けた課題を見つけ、その解決のためのプランを提案できた。
			B		

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、工夫と対策をしながらできる限りの教育活動を実施し、寮生も含め感染者を出さずに学校運営ができたことは評価できる。 ・1年保護者アンケートの結果が相対的に低評価であったが、この原因を分析し、改善に向けて取り組んでほしい。 ・中山間地の狭い環境や人間環境で育ってきた生徒達が卒業後、広い社会に適応し、活躍できるような指導を望む。 ・部活動加入率が高いと聞けるが、部活動やe-sports関連の部活動があってもよい。また、自転車運転に関する安全教育を徹底すべき。 ・地域との連携を目標に掲げているが、生徒達のふるさと意識の醸成はどのように行っているのか。高い意識をもっているのか。
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策を徹底する中で、組織運営や諸業務の見直しを行い、効率化を図りたい。また、その過程においてICTを積極的に導入・活用し、より効率的で合理的な学校運営を目指していきたい。その分各教職員が生徒と向き合う時間を今以上に生み出していきたい。 ・少人数教育の利点を最大限活かし、学校-生徒間における指導体制を確立し、より一層きめ細やかな指導を行っていく必要がある。 ・コロナ禍であるが故に、地域連携や、高大連携など外部との連携をさらに進め、様々な観点から学びの機会を提供していく。 ・生徒個々の進路希望に見合った個別指導を充実させ、進学・就職ともに第1志望での進路実現を保障する。
---------------	---